

紀要『ライティング研究』投稿テンプレート 日本語版 (全角 40 字詰め 35 行が目安です。)

(1行分は余白欄)

大学ライティング教育への期待（ゴシック体 16pt 太字）

—学生の自ら書く力と授業構築— (ゴシック体 12pt)

青山 太郎^{*1}, 相模原 花子^{*2} (明朝体 12pt)

*¹青山学院大学教育人間科学部、*²青山学院大学理工学部（明朝体 10.5pt）

College Writing Education: (Arial 12pt)

Course to Nurture Autonomous Writing Ability (Arial 12pt)

Taro Aoyama^{*1} and Hanako Sagamihara^{*2} (Times New Roman 10.5pt)

*¹College of Education, Psychology and Human Studies, Aoyama Gakuin University (Times New Roman 8pt)

*²College of Science and Engineering, Aoyama Gakuin University

キーワード：アカデミックライティング、情報リテラシー、自律学習

1. はじめに(見出し、本文 10.5pt)

2. 研究背景

紀要『ライティング研究』投稿テンプレート 日本語版 (全角 40 字詰め 35 行が目安です。)

2.2 □□□□□□□

表 1

表題は図表の上部に付ける

学年	サンプル	タスク
合計		

注. 図表は、本文で参照している箇所と同ページに載せる。内容に従って番号付けをし、表題を中央揃えで付ける。表題は、図表の上部に付ける。APA第7版に拠る。

紀要『ライティング研究』投稿テンプレート 日本語版 (全角 40 字詰め 35 行が目安です。)

注

参考文献

木下是雄(1981). 『理科系の作文技術』 中央公論社.

佐渡島紗織(1999).「自立した書き手を育てる：対話による書き直し」『国語科教育』66, 11-18.

村岡貴子, 鎌田美千子, 仁科喜久子(2018). 『大学と社会をつなぐライティング教育』くろしお出版.

Bazerman, C. (1988). *Shaping written knowledge: The genre and activity of the experimental article in science*. University of Wisconsin Press.

Kostelnick, C. (1989). Process paradigms in design and composition: Affinities and directions. *College Composition and Communication*, 40 (3), 267–281. <https://doi.org/10.2307/357774>

紀要『ライティング研究』投稿テンプレート 日本語版 (全角 40 字詰め 35 行が目安です。)